

されていない荷札は床銅につけられたものではないだろうか。ただし、重量の記載もない一点については荷の種類は不明とせざるを得ない。荷札の時期は差出人の名から嘉永二〇七年と思われる。

なお、三幸銅山については、小葉田淳「鉦山稼行とその周辺―若狭、三光銅山の場合―」『史林』五七一―一九七四年、同「若狭三光銅の大坂廻送と銅座売上」(一)(二)『住友修史室報』八、九一九八二年、一九八三年を参照されたい。

釈読と三幸銅山については住友史料館今井典子氏のご教示を得た。

9 関係文献

鈴木秀典・清水ひかる「江戸時代最大の精錬遺跡 住友銅吹所の発掘」(勸大阪市文化財協会『葦火』二九 一九九〇年)

鈴木秀典・清水ひかる「同右―その2―」(同『葦火』三一 一九九一年)

(鈴木秀典)

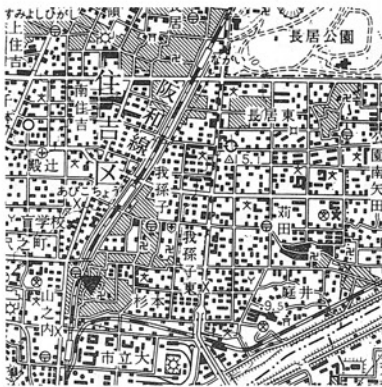
大阪・山之内遺跡

- 1 所在地 大阪市住吉区山之内元町
- 2 調査期間 一九九一年(平3)二月～三月
- 3 発掘機関 勸大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 松本啓子
- 5 遺跡の種類 铸造関係遺跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世(室町時代)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山之内遺跡は、現在の大和川に北接する微高地の上に位置し、現地表面の標高は約一一mを測る。現在までの調査から推定される遺跡の範囲は、東西二km、南北一・五kmで、弥生時代の集落と墳墓、古墳時代・奈良時代・中世の集落などが検出されている。

今回の調査地は、遺跡北

東部のJR阪和線と城東貨物線に挟まれた民家の密集した場所で、今まで発掘調



(大阪東南部)

査があまり行なわれていなかった所である。民家の建替えに先立つ調査のため、面積が約30㎡と狭かったが、土坑一二基、井戸一基を検出し、遺物は包含層出土のものも含め、整理用コンテナ約50箱分が出土した。



遺物は全て遺構内に廃棄された状況で出土し、その内容は、熔解炉や鋳型・ふいごの羽口などの鋳造関係のものがほとんどで、総じて土器の出土は少なかった。しかし、地山直上の土坑一基だけは瓦質の羽釜・甕・播鉢・青磁などの土器、瓦、円礫といった遺物が多く、これらに混じって少量の炉や鋳型の破片が見られた。この土坑の遺物から、一四世紀後半から一五世紀頃の年代が考えられた。


今回の調査に関連して特記すべきことは、「河内鋳物師」と呼ばれる鋳物師集団についてであろう。丹南を本拠として活躍した「河内鋳物師」は、一四世紀頃に解体して、その一部が住吉・堺あたりに移住し、その移住先の「五個荘」と呼ばれた場所は「我孫子・庭井・杉本・苅田」といった村であったといわれている。今回の調査地は、現地名でいえば、まさにこれらの村々に囲まれた場所であり、検出された遺構と遺物は、この鋳物師集団との関わりを想定させるものである。

木簡は、井戸の下半部から廃棄された大型の炉・加工木とともに出土した。この井戸からは少量の土器が出土したが、時期を断定するには至らず、この井戸が土器の多く出土した土坑を切ることから、

一四世紀後半から一五世紀頃を上限とする年代が考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「」^{〔昔カ〕}蘇民将来 ^{〔子カ〕}孫住宅

・「」 急々如律令

177×17×2 032

木簡の頭部は山形に削り、その直下に切り込みを左右対称に入れて、縛りつけられるようになっている。

文字は表裏両面に墨書されているが、「民」から「子」までは墨が薄く読みにくい。

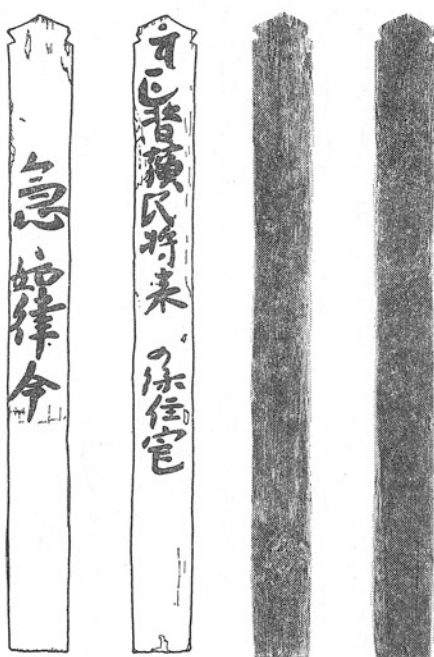
蘇民将来と書かれた面の第一字目は大日如来を意味する梵字で、パンと読む。第二字目は目を表わす形象文字と考えられ、この二字以外は全て漢字である。同じ面の第三字目と第八字目は、大阪府西ノ辻遺跡(『木簡研究』七、八)や観音寺遺跡(『木簡研究』八)から出土した蘇民将来札を参照すると、それぞれ「昔」と「子」であると考えられる。「蘇」の字は魚と禾の位置が現在の字とは逆になっている。この面最後の文字「宅」は筆画が多く、西ノ辻遺跡出土のもの一例の蘇民将来札の中の「宅」と「也」の二文字が比較的密着して書かれたものに字形が似ているので、あるいはこの二文字のつもりで書いたものかも知れない。しかし、裏面の「急」の字なども画数が多いので、この文字の書き手のくせである可能性も否定できない。

なお、釈読については奈良大学水野正好氏、奈良国立文化財研究所史料調査室の諸氏からのご教示を得た。

9 関係文献

松本啓子「山之内遺跡のまじない札」(勸大阪市文化財協会『葦火』三三 一九九一年)

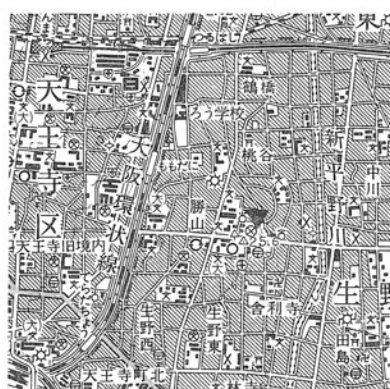
(松本啓子)



大阪・勝山遺跡 かつやま

- 1 所在地 大阪市生野区勝山北三丁目
- 2 調査期間 一九九〇年(平二)一〇月～一二月
- 3 発掘機関 勸大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 高井健司・松本百合子
- 5 遺跡の種類 遺物包蔵地
- 6 遺跡の年代 縄文・江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

勝山遺跡は、大阪平野を南北に延びる上町台地の東縁にあり、御勝山古墳の北方に位置する。御勝山古墳では、周濠・造出し・葺石



(大阪東南部)

・埴輪が確認されており、築造年代は五世紀前半と考えられる。また、大坂夏の陣の際に徳川秀忠が岡山本陣を構えたことが知られており、当時の堀割も、古墳の西側で見つかっている。調査は古墳に関連する遺構の存在を予想し、後円部